

令和8年（2026年）4月16日

れきみん

資料館だより

No. Ⅲ－53

相生市立歴史民俗資料館

TEL (FAX) : 0791-23-2961 E-mail : aioi-rekish-minzoku@vesta.ocn.ne.jp

〈連載 矢野荘-「中世あいおい」へのいざない-8〉 寺田氏の活動

矢野荘関係史料に寺田氏がたびたび登場します。寺田氏の動向は矢野荘における重要な歴史事象として多くの研究者が注目し、研究が重ねられてきました。

〈矢野荘と寺田氏〉

寺田氏は矢野荘内の寺田（現在の相生市若狭町寺田付近）を本拠にしていたとされ、鎌倉時代後期（14世紀前半）から「悪党」*1として活発に活動しました。

久富保を開発した秦為辰ひさとみのほ はたのためときの子孫と称し、矢野荘最大の重藤名しげふじみよう*2を基盤に活動した在地領主でした。源頼朝によって播磨に派遣された梶原景時によって鎌倉幕府の御家人に編成され、たびたび軍役を勤めました。

寺田氏は矢野荘例名の公文職くもんしき*3を務めたほか、大僻宮おおさけぐう（現在の土井大避神社）べつとうの別当・神主・祝師職も務めました。

承久じようきゆうの乱後、関東から海老名氏地頭として例名に入ると、公文（荘園領主によって任命）の寺田氏は地頭（鎌倉幕府によって任命）の海老名氏と対立する立場になりました。1299年（正安元）しやうあんに領家方藤原氏と地頭方海老名氏したじちゆうぶんで下地中分が行われると、寺田法念は自らの名田を領家方ほうねんに移してそこでの勢力拡大をもくろみましたが、根本所領であった重藤名のうち約1/4が地頭方に配分されることになり、大きな痛手となりました。特に、例名の政所まんどころ（荘園経営の現地拠点）があったとされる「中ハサミ」の地が地頭方になったことは致命的であったようです。そのうえ、地頭の海老名氏は下地中分で配分された範囲を越えて押妨を繰り返したというところで、法念は幕府に訴えました（幕府も法念の訴えを認める）。

*1 悪党…主に鎌倉時代後期から南北朝時代にかけて幕府や荘園領主の支配に抵抗した集団

*2 名…荘園における年貢・公事の収納単位。重藤名は矢野荘内最大の名で荘内各地に点在する耕地の集合体。

*3 公文…荘園において文書の管理などに従事する代官。

〈寺田法念の「悪党」活動〉

1313年（正和2）に領家方が東寺に寄進され、寺田氏の拠点となっていた重藤名も東寺領にくみこまれました。

法念しやうわは南禅寺領の別名方（現在の相生市矢野町小河）への勢力拡大をはかりました。1314年（正和3）に一族と近隣の地頭・御家人や荘官（荘園の代官）・山僧（比叡山の金融業者）らと共に別名方に討ち入り悪行の限りを尽くし、別名代官の矢野清俊を討ちました。法念ら一党は別名に再三侵入し、政所や民家を焼き払い、年貢を差し押さえ、城郭を築き、作麦を刈り取ったり、農民を捕えたりする行為に出ました。「都鄙名誉の悪党」（都と地方で知らない人のない悪党）と称され、幕府も法念以下を捕らえるよう命じました。

1317年（文保元）ぶんぽう、例名の支配権を東寺に委ね、重藤名を東寺に寄進する院宣が下されると、重藤名の引き渡しを拒んだ法念は矢野荘を追放されました。

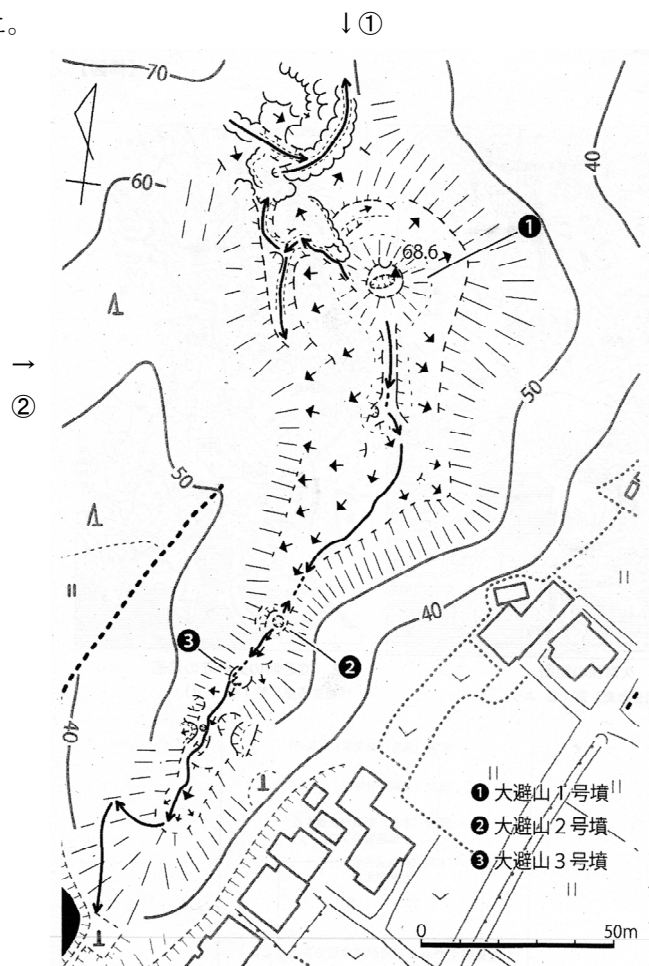
〈東寺と寺田氏との抗争〉

しかし、その後も寺田氏と東寺の抗争は続きました。1328年（嘉暦3）には寄進前^{かりやく}の領家だった藤原冬綱と結んで乱入し、1335年（建武2）にも法念^{けんむ}の孫の範長ら余党が侵入し東寺と合戦におよびました。この時、東寺側は寺僧を下向させ、支援する有力荘民と「大僻殿山上」に「御要害」を構え、裏山から「兵糧」^{ひやうろう}を補給するなどしてともに戦い、寺田氏を圧倒して復帰を阻止しました。

〈「大僻殿山上」の「御要害」〉

この要害が構えられた場所は、大避山1号墳が築かれた尾根と考えられます。1号墳からは三方に眺望が利き寺田勢の動向を把握しやすく、2号墳・3号墳が築かれた南に延びる細長い尾根は天然の防御壁になるものと思われます。1号墳の北側（下坪側）には堀切状の深い溝地形が見られ（奥山（現在の福井）側は途切れている）、尾根の突端付近にも浅い堀切様の小溝が確認できます。

大避神社後方の小尾根を要害の場所とする説がありましたが、この場所ではそもそも構えるのが難しく効力を発揮しえないことから、要害の地とはなりえないと考えるのが妥当でしょう。大避山1号墳を転用し尾根を有効に活用したと考えると、奥山側から兵糧を運び込むという協力的行為も理解できます。



「大僻殿山上」の「御要害」推定地の地形 萩 能幸作図・一部加筆

①堀切状の深い溝地形 ②「兵糧」補給路（推定）

〈参考文献〉

馬田綾子ほか 1984「中世相生の展開」『相生市史』第1巻（相生市・相生市教育委員会）

馬田綾子 1986「矢野荘の動向」『相生市史』第2巻（相生市・相生市教育委員会）

高木徳郎 1998「播磨国矢野荘の荘園景観と政所」『悪党の中世』（岩田書院）

〈付記〉

高木徳郎氏による当資料館令和7年度特別展記念講演の内容を多く引用させていただきました。

（中濱久喜）

学芸員自己紹介

令和8年（2026年）4月1日着任

加々良 祥伍

平成9年（1997年）生まれ

愛知県碧南市出身です。専門は文献史学で、大学・大学院では主に室町時代の研究をしていました。遠方の出身ではありますが、文化財の保護・保存、そして多くの方に相生市の歴史や魅力を伝えていけるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。